

SUMMER

July 2020 no.167

Japan Association of Environment Assessment

# JEAS

## NEWS

会長就任あいさつ 梶谷 修	2
副会長就任あいさつ 島田克也・林 邦能	2
新任役員の紹介	3
令和2年度通常総会	4

## エッセイ

ハワイで考え、学ぶ「環境問題」【平成29年度信州大学環境教育海外研修】について	6
信州大学経法学部 教授 小林 寛	
環境アセスメントデータベース“EADAS”追加機能紹介	8
環境アセスメント士紹介	9
山田智通(自然環境部門)／森口宏明(自然環境部門)	
JEASレポート	10
JEAS資格・教育センター便り	11
お知らせ	12

今号では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特集記事の掲載を見送りました



第8回 JEAS フォトコンテスト入賞作品／「島原の盆」／撮影：高柳茂暢（アジア航測（株））

## 会長就任あいさつ

# 未来を切り拓くアセスを目指して-新型コロナとの共存-

(一社) 日本環境アセスメント協会

会長 梶谷 修



このたび、2020年度の通常総会におきまして、役員改選が行われ、会長として再任されました。微力ながら新たな気持ちで皆さまとともに、協会発展のため最善の努力をいたす決意でありますのでよろしくお願い申し上げます。

昨年度は、終盤に新型コロナウイルス感染症拡大による社会問題が発生し、当協会の活動も影響を受けました。まだ感染の終息が見えない状況ですが、今後、社会経済活動との両立を図っていくうえで「新しい生活様式」が長期的に必要となっています。協会の今年度の活動にも影響があり、さらには長期的に社会生活の在り方、ひいては環境アセスメントの在り方にも影響を及ぼすことが懸念されます。

このため、今年度の事業計画の実施については、厳しい状況にあります。現状を見据えた活動方針作成のもと、活動と予算の見直しを検討しながら柔軟に対応していく所存です。その際、Web会議システム等リモートシステムの検討・活用を図り、新しい形の会

議、研修・セミナー等に取り組んでまいります。

今年度の協会活動内容については、「JEAS 中長期ビジョン (2018~2027)」の実施計画である「中期計画 2019~2021」に基づいて次に示す5つの主要施策を進めます。

○風力発電、太陽光発電等再生可能エネルギー分野に関する環境アセスメントの進展

○支部活動の活性化

○海外交流によるアジア等地域の持続的発展への貢献

○「環境アセスメント士」の活躍の場の拡大

○SDGs等新たな課題に対する検討と発信

これらの活動を通じ、協会は「未来を切り拓く環境アセスメント」の推進を図ってまいります。

今年度は厳しい社会情勢のなかでのスタートとなりましたが、会員各位と一丸となって遂行してまいりますので、引き続き、関係省庁をはじめ、会員各位、関係者の皆さまのご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

## 副会長就任あいさつ

# 未来を切り拓く 協会活動を目指して



(一社) 日本環境アセスメント協会

副会長 島田 克也

いであ (株)

このたび、協会の副会長を務めさせていただくこととなりました。これまで7年間理事として、企画運営に携わってまいりました。この間、協会の経営基盤を強化するための構造改革の取組や新たな「JEAS 中長期ビジョン (2018~2027)」に基づく活動の推進など、JEASを取巻く社会環境の変化に対応するべく、協会活動の方向は変化してきていると考えております。

今後も気候変動をはじめとした地球環境の危機への対応、政府・自治体・企業等による社会変革に向けた取組など、重点的に対処すべき環境の問題ならびに協会に期待される役割も変化していくものと考えられます。また、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響が各方面で懸念されておりますが、これまでと異なった価値観やルールのもとでの新しい社会活動、経済活動の在り方が求められていくことも考えられます。協会の活動もこのようなさまざまな変化に合わせ、より良いものに柔軟に変えていくことが必要と考えております。

未来を切り拓く環境アセスメントの理念のもと、微力ではございますが精一杯務めさせていただく所存でございます。関係省庁、会員各位、関係者の皆さまのご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 副会長就任あいさつ

# 会員にメリットがある 協会活動を



(一社) 日本環境アセスメント協会

副会長 林 邦能

(株) 日建設計

このたび、協会の副会長を拝命することになりました。理事になって4年、情報委員会委員長としては委員の皆さまに精力的に活動いただき、ホームページの改定、四省との環境情報交換会の主催、協会パンフレットの改訂などに携わってまいりました。経験が少なく微力ではございますが、協会の発展のためにできる限りの努力をしてみたいと考えております。よろしくお願いいたします。

協会では中長期ビジョンの実行計画として昨年度に「中期計画 2019~2021」を策定し、これに基づき活動を進めていたところです。

情報委員会では理事会等の会合やセミナー・研修におけるWebの活用についてすでに検討を開始しておりましたが、新型コロナウイルスへの対応でその動きを加速させる必要性が一気に高まりました。今や、ツールの試行の段階ではなく、上手に活用して活動を進めていくことを標準にしていかなければなりません。働き方改革、新しい生活様式も視野に入れ、活動しやすく、会員の皆さまにメリットがある協会活動ができるよう、今後も取り組んでまいります。関係各省、会員各位、関係者の皆さまのご支援、ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。



役員氏名（会長・副会長を除き五十音順敬称略）

I. 理事（24名）

会長 梶谷 修 (一社)日本環境アセスメント協会  
 副会長 島田 克也 いであ(株)  
 副会長 林 邦能 (株)日建設計  
 池澤 紀幸 (株)復建技術コンサルタント  
 今関 哲夫 東京パワーテクノロジー(株) (新任)  
 釜谷 広志 (株)テクノ中部  
 河合 徹 八千代エンジニアリング(株)  
 工藤 俊哉 (株)ポリテック・エイディディ (新任)  
 (新任) 小島 淳 日本工営(株)  
 (新任) 後藤 隆 (一社)日本環境アセスメント協会  
 (新任) 佐藤 圭一 (株)ドーコン  
 関根 秀明 (株)建設技術研究所  
 平良 辰二 (株)沖縄環境保全研究所  
 高木 圭子 (株)環境指標生物

辻阪 吟子 (株)ブレック研究所  
 長岡 克郎 (株)東京久栄  
 濱田 敏宏 パシフィックコンサルタンツ(株)  
 平野 一郎 (株)環境総合テクノス  
 北条 慶智 (株)オオバ  
 (新任) 細川 岳洋 アジア航測(株)  
 森本 尚弘 (株)オリエンタルコンサルタンツ  
 山崎 崇 三井共同建設コンサルタント(株)  
 (新任) 湯浅 晃一 清水建設(株)  
 吉村 美毅 鹿島建設(株)  
 II. 監事（2名）  
 高塚 敏 (株)地域環境計画  
 所 英樹 (株)ところ会計事務所  
 <名誉会長>  
 田畑日出男 いであ(株)

新任役員の紹介



理事 教育研修委員会副委員長 小島 淳 日本工営(株)

このたび、理事を拝命いたしました。今般の新型コロナウイルス対応を契機として、われわれの働き方も大きく転換を求められるなか、担当させていただく教育研修委員会においても、研修会の開催形式や内容等、

検討すべき課題が多々ある状況かと思えます。会員の皆さまに有意義な教育研修の場を提供することを通じて、協会の発展にも貢献できるよう、微力ながら精一杯取り組む所存です。よろしくお願いいたします。



理事 事務局長 後藤 隆 (一社)日本環境アセスメント協会

このたび、理事・事務局長を拝命しました。前職の三井共同建設コンサルタント時代は、理事として教育研修委員会を担当していました。同社を定年退職後、2018年12月より、協会の事務局次長として、

協会運営に携わってまいりました。今後、微力ながら、協会の更なる発展・会員企業の皆さまの期待に役立つよう頑張ってまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。



理事 北海道支部長 佐藤 圭一 (株)ドーコン

このたび、弊社木村の後任として北海道支部長を務めさせていただくことになりました。私は、道路事業等の環境アセスメント業務に携わっており、協会活動としては、北海道支部の事務局・運営委員、

新中長期ビジョン策定委員会の委員を担当してきました。微力ではありますが、北海道支部をはじめ協会全体の発展に寄与できるように取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



理事 情報委員会委員長 細川 岳洋 アジア航測(株)

このたび、弊社滝口の後任として理事を拝命し、情報委員会委員長を務めさせていただくことになりました。私はこれまで、風力等の環境アセスメントに携わるとともに、20年近くJEAS ニュース編集委員会に参

加しておりました。コロナウイルスにより新たな社会活動が求められるなか、協会が進化し続けていけるよう微力ながら貢献していきたいと思えます。皆さまのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



理事 セミナー委員会副委員長 湯浅 晃一 清水建設(株)

このたび、弊社米山の後任として理事を拝命しセミナー委員会副委員長を仰せつかりました。入社以来、主に民間事業の条例アセス業務に従事してまいりました。そうした背景もあり、協会活動では条例研究

会に8年ほど参加させていただき、皆さまから刺激と活力をいただいております。今後は、セミナー委員会で皆さまのお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

# 令和2年度通常総会

一般社団法人日本環境アセスメント協会は、6月18日に令和2年度通常総会を開催した。会場となった東京都千代田区平河町のホテルルポール麹町には、全国から会員が参集したが、本年ははじめからの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、総会後の懇親会は中止となった。以下に当日の総会の様子を報告する。



## 総会

出席会員数は、委任状を含めて119法人となり、本総会が成立することが確認された。議長には梶谷修会長が選任され、総会の開会を宣言した。

報告事項として「令和元年度事業報告」の説明、決議事項として「令和元年度決算報告」の説明があり、高塚敏監事から決算報告等に関する監査報告が行われた。引き続き「令和2年度事業計画」、「令和2年度収支予算」及び「役員選任の件」の説明があり、すべての議案は本総会において異議なく承認された。

## 令和2年度事業計画 (2020年4月1日～2021年3月31日)

### 1. 事業活動方針

2019年度は、終盤に新型コロナウイルスによる社会問題が発生し、今後さらに社会経済活動へ大きな影響をもたらすことが危惧されるなか、協会会員にとっても楽観できない状況で新年度を迎えることになったが、協会活動については、「JEAS中長期ビジョン(2018～2027)」の実施計画である「中期計画2019～2021」に基づいて以下の活動を推進していく。

環境影響評価法をめぐる動きとして、風力発電事業等アセスメントの対象案件が年々増加しており、大規模な太陽光発電事業に関しても、本年4月より法対象事業となったことから、協会としても環境配慮ガイドラインの調査研究、セミナー、研修等を行っていく。

支部活動については、昨年4月に東北支部を設立し、設立総会等をはじめとしてさまざまな記念イベントを実施した。これで当協会は、東北を加えて5支部体制となり、各支部間及び東京本部の横断的連携を強化しつつ、支部活動をさらに活性化させる。

海外交流については、昨年10月にベトナム国海外研修を実施し、ISPONRE(天然資源・環境戦略研究所)との間で、環境分野の協力に関する覚書の署名を行った。今年

度も引き続き、有意義な活動を継続する。

環境アセスメント士に関しては、登録者は現在約570名となっている。今後も、試験実績の積み重ねと継続教育の充実により育成を図っていく。

また、SDGs(持続可能な開発目標)については、脱炭素・循環・生物共生社会の同時実現等、新たな環境政策の課題解決に向けた環境アセスメントの役割についてとりまとめ、社会に発信していく。

そのほか、実用化に向け検討を開始したWEB会議システムの活用による支部会員等との情報交換の向上や、積算基準の整備を引き続き行っていく。

これらの活動を通じ、協会は「中期計画2019～2021」に基づき、以下の主要施策を掲げて環境アセスメントの推進を図っていく所存である。

#### 【2020年度 主要施策】

- ・再生可能エネルギー分野に関する環境影響評価の進展への貢献
- ・支部活動の活性化
- ・海外交流によるアジア等地域の持続的発展への貢献
- ・環境アセスメント士の活躍の場の拡大
- ・SDGs等新たな課題に対する検討と発信

### 2. 事業内容

#### (1) 実施事業(公益目的事業)

##### 1) 公開型セミナー開催事業

###### A. セミナー委員会

公開型セミナーは年4回程度開催する。今年度の本部公開型セミナーは、話題性のあるテーマや公開型セミナーを実施するほか、外部の学会・協会との共催等を図る。また、支部共催セミナーは九州・沖縄支部との共催セミナーとして開催する。

###### B. 各支部

支部活動の充実に向け、環境影響評価に関する技術・情

報の伝達・普及を行う。また、本部との協力のもとに公開セミナーを実施する。北海道、東北、中部、関西及び九州・沖縄の各支部は、過年度同様に公開技術セミナーを1～2回開催する。

## 2) 環境アセスメント士認定資格制度事業

環境アセスメントの信頼性の向上と円滑な運用のため、環境アセスメント業務に専門特化した環境アセスメント士認定資格制度第16回資格試験を2020年11月23日(月・祝)に、仙台、東京、大阪、福岡の4会場で実施する。

環境省や国土交通省において請負・委託業務の発注にあたっての本資格の活用が進められていること、自治体においても資格の活用がみられるようになってきたことを受け、更なる周知・PRを進める。

また、9年度目を迎える環境アセスメント士会の育成を支援するとともに、同会との連携を強化して環境アセスメント士の人材活用の検討を進める。

## (2) 収益事業等

### 1) 企画部会

企画運営委員会は「中期計画2019～2021」に基づき、政策提言WGによる政策提言・研究提案活動の検討等、また会員会社における人材育成、働き方改革の参考となる活動を進める。

海外交流グループでは、特にベトナム国との交流を進める。昨年、MONRE(天然資源・環境省)において環境政策を所掌する機関ISPONREと締結した覚書に基づき、今年度は双方協力のもと、実施計画を作成し、有意義な活動を展開する。そのほか、海外の環境アセスメント、環境社会配慮、環境モニタリングに関する事業環境や技術等について会員向けセミナーを開催する。

また積算資料グループは、2019年度までに実施した技術要素編の検討結果を踏まえ、2020年度以降、事業編の見直しを開始する。社会の変化に合わせて技術要素編に修正を加え、精度の高い資料作成を目指す。

### 2) 広報部会

情報委員会は、関係官庁からの情報受信に関する事項、協会からの情報発信に関する事項、協会事務局の情報システムに関する事項を中心として、11月～12月に環境省、国土交通省、経済産業省、農林水産省との情報交換会を開催するほか、過年度に引き続き情報管理、情報発信を行う。

JEASニュース編集委員会は、機関誌JEASニュースを年4回(4月、7月、10月、1月)発行する。誌面構成は、特集、エッセイ、環境アセスメント士紹介、JEASレポートほかで構成する。誌面内容については、特集コーナーを

活用して環境アセスメントに関する技術情報、事例、研究等の情報を分かりやすく紹介し、JEASレポートのコーナーでは、JEAS諸活動のPR等、可能な限り当協会の活動内容を紹介する。

### 3) 研修部会

セミナー委員会は、会員向けセミナーを年2回程度、野外セミナーを年1回開催する。会員向けセミナーは所管省担当者の講演、野外セミナーは首都圏近郊を中心に実施する。講演内容については、講演のビデオを編集し、協会ホームページにビデオライブラリーとして掲載するとともに、関係支部等と連携し、コンテンツの充実を図る。

教育研修委員会は、環境アセスメント入門研修会、実務研修会、環境アセスメント士受験講習会、技術士受験講習会及び技術交流会を1回ずつ開催する。本技術交流会はセミナー委員会との共同開催とする。

### 4) 研究部会

昨年度までの2年間の研究活動について、成果報告CDの作成・配布と公開セミナーでの成果報告及び環境アセスメント学会での公表を行う。研究会の具体的活動について、自然環境影響評価技法研究会は、引き続き研究の深化を行うとともに今後の時代に即した技法の調査・研究を進める。

条例アセス研究会は、昨年度に引き続き制度の運用状況や社会インパクトを考慮した制度等に関する調査・研究を進める。

制度・政策研究会は、分かりやすい環境影響評価とその期待される環境配慮の効果について着目するとともに、近年の社会動向を考慮したアセスメント制度や政策に関する調査・研究を進める。

新領域研究会は、協会の中長期ビジョン、環境アセスメント分野における今後の課題等を見据え、環境アセスメントの展開、普及に向けた調査・研究を進める。

### 5) 支部活動

支部活動の充実に向け、最近の環境施策動向を踏まえて環境影響評価に関する技術・情報の伝達・普及を行う。また、地方自治体等との交流・連携を推進し、本部との協力のもとに各種セミナー等を実施する。

### 6) 環境アセスメント関連行事そのほか

環境アセスメント関連行事のうち、協会が適切と認める事業については積極的に協賛活動等を実施する。

### 7) 受託事業

環境アセスメント関係機関からの当該事業に関する技術の調査・研究等の業務を受託事業として実施する。

(編集委員：中村 健)





## ハワイで考え、学ぶ「環境問題」【平成 29 年度信州大学環境教育海外研修】について



信州大学経法学部 教授 小林 寛

### 1. はじめに

私が所属する信州大学においては、毎年 1 回、環境教育海外研修を実施しています。すなわち、「国外の環境活動について学ぶことを通じて、環境に対する取組に対して多様な視点で捉え、考え、実践することができる人材を育成し、本大学の環境活動の推進に資するために環境教育海外研修を実施しています」（信州大学ウェブページ<<http://www.shinshu-u.ac.jp/environment/works/overseas.html>>より引用）。このエッセイでは、ハワイで考え、学ぶ「環境問題」と題して、平成 29 年度の環境教育海外研修について紹介させていただきたいと思います。

### 2. 研修の概要（背景・目的・行程）

私が提案した研修は、学内の選考手続（他学部からも複数の応募がありましたので、コンペティションとなりました）を経て採用され、2018 年 2 月 15 日から同月 25 日の間（合計 11 日間）、4 名の学生（参加学生の所属学部は繊維学部 2 名、工学部 1 名及び理学部 1 名（人文社会科学系の学生の参加がなかったことがやや残念でありました））を引率し、アメリカ合衆国ハワイ州（オアフ島（特

にホノルル市）及びハワイ島）を訪問いたしました。この研修の基本コンセプトは「多角性・能動性」でありまして、参加学生に多角的な観点から能動的に「環境問題」を学んでもらおうというものでした。そのため、11 日間の旅程のなかで、考えられる限り多くの施設見学やハワイの人々と出会い議論を行うことに努めました。たとえば、ハワイ大学マノア校のみならず、ハワイ州議会、ホノルル市役所気候変動持続可能性レジリエンシー局<<https://www.resilientoahu.org/>>やホノルル市内の法律事務所など、学術的観点のみならず現場の観点も重視して、現場で働く方々の声をおうかがいして、学生の問題意識を発表させるなどして参加学生が能動的に環境問題について学ぶことができるよう努めました。

私が提案したこの研修の目的は以下の通りです。「ハワイ州は豊かな自然環境に恵まれているだけでなく、観光資源が重要な収入源であることから環境配慮・保全には力を入れており、2045 年までに再生可能エネルギーを 100% とする水準を掲げたことなどでも著名である。ハワイ州（特にホノルル市）における環境への取組を視察することは環境教育の見地から極めて有益である。」

また、研修の行程は以下の通りでありました。

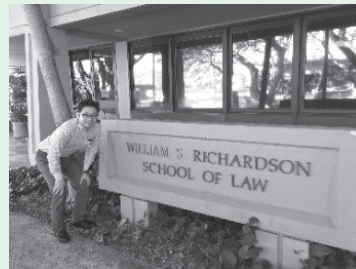
2月15日	日本発 ホノルル着	
2月16日	ハワイ大学マノア校	午前中はハワイ大学マノア校ロースクールの David Forman 先生にハワイの環境問題についてお話をうかがう。午後はハワイ大学マノア校キャンパスツアーに参加。
2月17日	オアフ島	オアフ島のフィールドトリップに参加。その後にはハワイ大学マノア校の学生（Japanese Culture Club）と交流し親睦を深める。
2月18日	カイルア・コナ（ハワイ島）に移動	ハワイ州立自然エネルギー研究所の視察のために、ハワイ島に移動。ハヴィ風力発電所の視察。
2月19日	カイルア・コナ	ハワイ州立自然エネルギー研究所の研修会に参加し、海洋温度差発電プラントなどを見学。
2月20日	ハワイ大学マノア校	午前中は Schlack Ito 法律事務所の Douglas Codiga 先生にハワイの環境法に関するお話をおうかがいし、議論。午後はハワイ大学においてアメリカ合衆国の環境史に関する授業を聴講。
2月21日	カボレイに移動し、ホノルルに戻る	廃棄物処理施設、汚水処理施設、ハワイ州議会議事堂、Go 法律事務所の視察。
2月22日	ハワイ大学マノア校	午前中はハワイの環境問題に関する授業を聴講。午後はハワイ大学の学生と交流（環境問題に関する意見交換）。
2月23日	ハワイ大学マノア校	午前中はホノルル市役所気候変動持続可能性レジリエンシー局を訪問し、午後はハワイ大学内のタロイモ畑において農作業の体験を行い、ハワイの歴史と文化について学ぶ。
2月24日	自由行動	午前中はダイヤモンドヘッドに登頂してハワイの自然環境を体験。
2月25日	日本に帰国	2月25日ホノルル国際空港発の便で26日に帰国。

### 3. 所感

私にとって最も印象に残っているのは、ハワイ島のカイルア・コナに所在するハワイ州立自然エネルギー研究所 (Natural Energy Laboratory of Hawaii Authority (NELHA)) <<https://nelha.hawaii.gov/>>の訪問でありましたが (拙稿「アメリカ合衆国の再生可能エネルギー法制に関する一考察—RPS と FIT の関係性を中心としたわが国への示唆—」法学研究 90 巻 10 号 65 頁 (2017 年 10 月) 参照)、この研究所では、ハワイ州の上記目標の達成に資するべく、再生可能エネルギーに関するさまざまな研究が行われており、そのなかでも、海洋温度差発電 (深海との温度差を利用した発電) のプラントの見学は貴重な経験でありました。再生可能エネルギーというと、太陽光や風力などを思い浮かべますが、今後さまざまな種類の再生可能エネルギーの発展性が期待されるとともに実用化の難しさも感じました。また、この研究所では、エネルギー研究のみならず、ハワイアンモンクアザラシというハワイ固有の絶滅危惧種の保護に関する取組も行われていました。研究教育的観点のみならず観光の観点からも推薦できる場所だと思います。なお、カイルア・コナではハヴィ風力発電所の見学も行い、風力発電施設から生じる騒音の問題についても参加学生に間近で体験してもらいました。

### 4. おわりに

上記の通り、参加学生にとっては盛り沢山の有意義な研修であったと思います。研修後の事後的な検証作業も必要ですので、帰国後は、信州大学学長等に対する報告のみならず、私が担当する環境法の授業において、本研修に参加した学生に、成果報告及び受講生との質疑応答を行ってもらいました。学生の感想も、「この研修で、日本とは異なる文化、社会についても学ぶことができ、私にとっても貴重な経験となりました」(板垣)、「この経験を今後活かしていきたいと思います」(鈴垣)、「改めて、いろいろな



ハワイ大学マノア校にて

角度から環境問題を考えていく必要性を感じています」(山崎) (以上、信大 NOW113 号 5 頁～6 頁 (2018 年 10 月) より引用) など大変好意的なものでありました。本研修を通じて、環境教育の効果が学生の卒業後に国際社会の中で活かされることを期待しています。

さらに、ハワイを含むアメリカ合衆国と対比して感じたのは、日本は循環型社会の形成のために廃棄物の分別排出が徹底されているということであり、対照的に日本の良さも感じました。今後、レジ袋も有料化に向かうなか、私自身もマイバックを持参するための日々の工夫などよりエコフレンドリーな生活を心がけようと思うきっかけとなりました。なお、本研修の概要は以下のウェブページにおいて公開されておりますので、ご関心がありましたら、御覧いただけますとありがたく思います <<https://www.shinshu-u.ac.jp/zukan/report/2045100.html>>。

最後に、このエッセイの執筆の機会を与えてくださった日本環境アセスメント協会の関係者の方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

#### Profile

小林 寛氏 Hiroshi KOBAYASHI

信州大学経法学部教授

#### ■執筆者略歴

1998年慶應義塾大学法学部法律学科卒業、2005年テュレーン大学ロースクール・エネルギー・環境法修士課程修了、2016年早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程修了、博士(法学、早稲田大学)、長崎大学准教授などを経て、2016年4月より現職

環境アセスメントデータベース“EADAS”は、2013年の運用開始から6年余りが経過しました。環境アセスメントにおいて「地域特性を把握すること」はすべての検討の基礎となる重要なプロセスです。このため、EADASでは地域の自然環境、社会環境に関する情報の拡充に取り組んできました。また近年は、再生可能エネルギー施設の検討にあたって参考となる電力系統に関する情報や、風力発電の立地にあたって調整が必要となる気象レーダーの情報、固定価格買取制度（FIT）の認定設備の情報など、立地検討の初期の段階で参考となる関連情報の拡充に取り組んでいます。

これまでの取組の成果として、約200項目に及ぶ地図情報（マップサービス）を収録し、WebGISのプラットフォームとしてほかに類例のない情報量となっています。また、2015年にタブレットやスマートフォンに対応したことで、フィールドワークを行う場面などでも広く活用いただくようになり、アセスメント手続に関与する事業者、コンサル、自治体関係者のみでなく、研究者や環境団体などにもユーザーが広がってきました。こうしたユーザー層の拡大にともなって、WebGISの機能に関するさまざまな問合せや要望をいただくようになったことから、更なるEADASの普及に向けて、2019年度に、以下の3点の機能の追加を行いました。

### ① パーマリンク機能

EADAS 上に表示している地図情報の表示設定を URL 出力する機能です。URL をメールに貼り付けることで、情報を表示した状態の画面をほかのユーザーに共有できます。これまでは表示した地図情報を PDF などに出力する必要がありましたが、より簡便に情報を共有できるようになりました。なお、パーマリンク機能で出力した設定情報はサーバ上に保存されており、一定期間（1年を想定）で削除されます。長期間の保存が必要な場合には、従来どおり PDF や画像ファイルに出力してください。

### ② 情報項目の検索機能

EADAS に収録された約 200 に及ぶ情報項目（地図情報）のなかから、表示したい情報項目をキーワードで検索できます。なお、この検索機能は情報項目の区分やタイトルに含まれる文字列を対象としていますので、表示したい情報項目が見つからない場合にはトップページから「地理情報システム（GIS）：詳細を見る」で表示される情報項目の一覧を併せて参照ください。

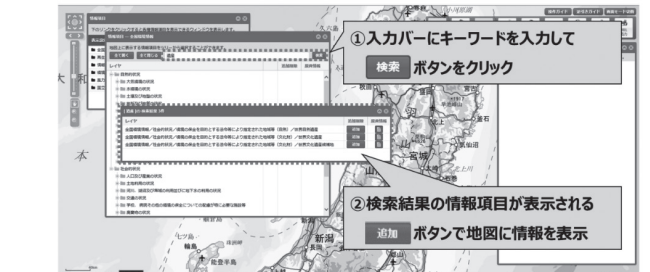
#### ■ パーマリンク機能 情報の表示画面をURL出力してメールで共有

EADAS上に表示している地図情報の表示設定をURL出力する機能です。URLをメールに貼り付けることで、情報を表示した状態の画面を他のユーザに共有できます。



#### ■ 情報項目の検索機能 表示したい情報をキーワードで検索

EADASに収録された約200におよぶ情報項目（地図情報）の中から、表示したい情報項目をキーワードで検索できます。



#### ■ 画面モード切替機能 画面上のパネルをまとめて非表示に切替

「画面モード切替」ボタンで、すべてのパネルを一括して「表示」⇔「非表示」に切り替えることができます。



### ③ 画面モード切替機能

「画面モード切替」ボタンで、すべてのパネルを一括して「表示」⇔「非表示」に切り替えることができます。表示する情報を選択したり編集したりする「操作モード」では、情報選択や凡例などのパネルで画面が狭くなっていますが、「画面モード切替」ボタンにより、パネルが表示されない「閲覧モード」に切り替えることができます。

昨年度に実施したアンケートでは、情報項目の拡充や機能の追加など多くのリクエストをいただきました。本年度も EADAS 上でのアンケートの実施を予定していますので、EADAS の普及促進、利用拡大に向けて、ご意見をお寄せいただけると幸いです。





# JEAS 環境アセスメント士 紹介



自然環境部門 (2016年)  
山田 智通

## アセス技術の向上と支部活動

私が勤務するタナベ環境工学株式会社は、1972年に創業、もうすぐ50周年を迎えます。大分県大分市を本社とし、環境部と建設技術部があり、環境部は、水質・土壌・大気・騒音・振動・自然環境などの調査関係と分析の

計量証明事業、建設技術部では、地盤(地質・土質)調査と測量、また、民間では数少ない骨材試験の大分県認定登録試験機関となっております。そのため、官民を問わず、調査・試験・分析、環境アセスメントに取り組んでおり、そのなかで私は、主に自然環境分野を担当しています。

自然環境分野は、専門の幅が広いと、長年お付き合いしているそれぞれの専門家に協力していただき行っています。また、自ら、近年の活動として、休日に魚類を対象とした「大分県レッドデータブック見直し調査」、「祖母傾国定公園自然学術調査」や「内水面漁協が独自で行う調査」等に参加しています。

環境アセスメント士は、2016年に自然環境部門で合格しました。受験の動機は、すでに技術士、土木学会上級、RCCM、環境カウンセラーなど土木・環境関連資格も取得しております

が、さらに自然系アセスの専門性を高めるために受験しました。

大分県には、国や県を合わせて10の自然公園がありますが、これら地域をはじめとする開発事業における環境保全に少しでも力になればと思っています。

2016年度からは、九州・沖縄支部の運営委員として、今年で活動5年目を迎えます。

九州・沖縄支部は、支部長、事務局のリーダーシップのもと、運営活動も活発であり、近年は、女性幹事グループによるセミナー活動も活発に行われ、好評価を受けています。

私も2年目の2017年度には、大分の技術セミナー・野外セミナーを任せられ、準備・調整には苦労しましたが、講師の先生方の協力により好評なセミナーを開催することができました。

環境アセスメント士としてはこれからです。環境アセスメント技術の向上とJEAS本部、九州・沖縄支部活動の活性化に寄与したいと考えております。



タナベ環境工学(株)

TEL.097-503-8900  
<http://www.tnb-kankyo.co.jp>

## 指導していく立場の技術者に



自然環境部門 (2020年)  
森口 宏明

私が勤務する株式会社環境アセスメントセンターは、環境影響評価、環境調査(動植物調査、林地開発に関わる自然環境調査、生活環境調査、地質調査)、環境計画、環境教育を専門としている会社です。設立以来、「地域の

特性を重視した「オーダーメイドのアセスメント」を行うとともに、長期的展望に基づく地域環境、さらには地球環境の保全に力を注いでいきたいと業務に取り組んでいます。

私は、大学卒業後、前職となる環境コンサル会社に就職し、林地開発に関わる自然環境調査や河川生物調査を中心に、河川や事業所排水の水質調査、ごみ処理場の精密機能検査等の業務を10年ほど経験してきました。ただ、自然環境調査を担当する課は4~6名程度の小規模な部署で、入社してくる人も経験豊富な中途採用の方のため、後輩はいませんでした。

そんな私にも、転職して環境アセスメントセンターに入社して数年が経ち、やっと後輩ができました。今まではずっと指導をいただく立場でしたが、今後は今まで得てきた経験や技術を後輩に指導していかなければなりません。

そんな折、環境アセスメント士の資格を知りました。資格取得を通じて、環境アセスメントの意義や、正しいプロセスと内容を理解し、後輩を指導していくうえでも、今まで「なんとなくこういうもの」と覚えてきたものを見直し、自身のスキルアップや後輩の指導に役立てたいと思いました。

結果として、なんとか環境アセスメント士の試験に合格することができましたが、試験対策を通じて、改めてまだまだ自身もスキルアップの余地があることを痛感しました。今後も積極的に業務に取り組んでいくとともに、スキルアップと頼れる先輩を目指し、環境アセスメント士の名に恥じぬ技術者となるよう、より一層の研鑽を積んでいきたいと思っております。



魚類調査を実施する筆者

(株)環境アセスメントセンター

TEL.054-255-3650  
<https://eac-net.co.jp/>

### 定期アンケート調査報告

環境アセスメント業務等の売上額、従業員数、資格保有状況等の現状及び協会活動に関する会員の意見等について2018年度を対象としたアンケート調査を実施した。64社から回答が得られ、回収率は44%であった。

#### (1) 会員の地域分布及び業種区分

会員数は2020年3月現在144法人であり、昨年度同時期に比べ8社増加した。会員の分布は関東(56%)が過半数を占め、次いで東北(10%)、東海(9%)、九州・沖縄(7%)、中国(6%)、近畿(6%)であり、北海道、甲信越、北陸、四国は1~3%となっている。

会員の業種区分は、最も多いのが「専門サービス業」(建設コンサルタント業、測量業等)の68%、次いで「その他事業サービス業」(環境測定・分析業等)23%であり、この2業種でおおむね90%を占める。そのほか「総合工事業」、「情報サービス業」及び「その他」の業種で構成されている。環境アセスメントに関連する多様な業種によ

て構成されていることが当協会の大きな特徴である。

#### (2) 環境アセスメント及び環境関連業務の売上

環境部門の売上は、実績ベースで見ると回答54社合計で637.2億円である。環境部門の売上を回答率で割戻し、会員全体の値を推定すると、2016年度1,570億円、2017年度1,501億円、2018年度1,729億円であったが、1社平均の売上額は11.94億円とこれまで同様であり、横ばい傾向にあることが読み取れる。環境関連業務の売上額は環境アセスメント業務の売上額の約1.6倍であった(表-1)。

外注費は、回答43社合計で137.1億円、1社平均で3.24億円となっており、2017年度と比較して若干の増加が見られた。しかし、売上に対する外注費率は2017年度に比べて減少傾向を示し、21%となった(表-2)。

#### (3) 環境関連部門に関わる従業員経験年数

1社平均従業員数は68.3人で、内訳は経験年数5年未満12.1人、5年~13年未満17.5人、13年以上38.7人となっており、13年以上勤務している技術者が最も多い。環境関係の技術者数は、年度ごとの変動はあるものの、依然、若年技術者の割合は低く、今後も若手技術者の積極的な採用と育成が必要であることがうかがわれる(表-3)。

#### (4) 環境アセスメント士、技術士等資格保有状況

1社平均の資格保有者数は環境アセスメント士4.4人、技術士26.2人、技術士補13.0人であり、環境アセスメント士に関しては思うような増加がみられない。経験年数別の資格保有者数をみると、

環境アセスメント士、技術士、技術士補ともに経験年数13年以上が最も多くなっている(表-4)。

■表-1 環境部門の売上 単位:億円(実績)

区分	2016年度		2017年度		2018年度	
	回答79社計	1社平均	回答48社計	1社平均	回答54社計	1社平均
①環境アセスメント業務	275.1	3.48	196.1	4.17	247.8	4.59
②環境関連業務	623.3	7.89	325.2	6.92	389.4	7.35
合計	898.4	11.37	529.9	11.04	637.2	11.94

■表-2 環境部門の外注費 単位:億円(実績)

区分	2016年度		2017年度		2018年度	
	回答58社計	1社平均	回答43社計	1社平均	回答43社計	1社平均
①環境アセスメント業務	100.4	1.73	54.2	1.29	54.9	1.28
②環境関連業務	107.8	1.86	68.9	1.64	82.2	1.96
合計	208.2	3.59	126.6	2.94	137.1	3.24

■表-3 経験年数別従業員数 単位:人

区分	2016年度		2017年度		2018年度	
	回答80社計	1社平均	回答56社計	1社平均	回答64社計	1社平均
経験5年未満	843	10.5	583	10.4	775	12.1
経験5年~13年未満	1,163	14.5	778	13.9	1,119	17.5
経験13年以上	2,996	37.5	2,453	43.8	2,475	38.7
合計	5,002	62.5	3,814	68.1	4,369.0	68.3

■表-4 経験年数別資格保有状況 単位:人

区分	2016年度					2017年度					2018年度				
	回答80社計		1社平均			回答56社計		1社平均			回答64社計		1社平均		
	アセス士	技術士	技術士補	アセス士	技術士	技術士補	アセス士	技術士	技術士補	アセス士	技術士	技術士補	アセス士	技術士	技術士補
経験5年未満	1	1	100	0.0	0.0	1.3	6	10	357	0.1	0.2	6.4	4	6	126
経験5年~13年未満	39	147	154	0.5	1.8	1.9	33	244	330	0.6	4.4	5.9	46	190	150
経験13年以上	175	988	483	2.2	12.4	6.0	193	1,443	419	3.4	25.8	7.5	196	1,437	407
合計	215	1,136	737	2.7	14.2	9.2	232	1,697	1,106	4.1	30.3	19.8	246	1,633	683

アセス士:環境アセスメント士





## (5) 従業員の出身学部

従業員の出身学部は、これまで同様、工学系、理学系、農学系、水産学系が圧倒的に多い。この傾向は、経験年数に関係なく若年層からシニアまですべての年齢層に共通である。そのほか、医薬系、文科系、芸術系、政治、経済、社会系学部出身者を採用している企業もある。環境アセスメントの実務には、技術面ばかりでなく社会科学的な面も含めた幅広い分野の専門家を必要とすることから、従業員の出身学部も多岐にわたっている。

## (6) 協会活動への評価

協会活動に対する評価では、「非常によくやっている」21%（2017年度22%）、「よくやっている」55%（2017年度58%）と約8割がおおむね肯定的意見を示している。

協会に対し希望する活動としては、ESG投資の指標となるアセスメント手法の開発、地球温暖化対策を評価する仕組みづくりなど、環境に関する投資や気候変動対策を支援する評価手法の開発への期待が寄せられたほか、再生可能エネルギー事業に係る調査予測評価項目・手法の標準化や事例紹介への希望があった。そのほか、地方研修会の充実、地方支部主催の講習会への講師派遣やCPD支援など、地方会員への継続教育に関する活動へ希望が寄せられた。

## (7) 協会活動に対する意見

協会活動に対する自由意見の概要は以下のとおりであり、JEASの魅力向上を期待する意見が寄せられた。

- ①新分野の調査予測評価技術の標準化や、小規模事業における自主アセスの拡大を期待している。
- ②環境アセスメントに拘らず、環境関連分野全般に関して幅広く活動していくこと期待する。
- ③開発事業者との交流なども期待したい。また、他会員企業の技術者と交流できる機会があることも良い。
- ④地方会員のメリット向上の推進を期待する。
- ⑤環境アセスメントが主要事業である会員は、メリットがあるかもしれないが、そうでない場合でもメリットを感じる魅力向上が必要である。

これらご意見等については、その内容を検討し、今後の協会活動に速やかに反映していく必要がある。

(情報委員 太田垣貴啓)

## JEAS 資格・教育センター便り

1. 環境アセスメント士は、環境省の「人材育成・認定等事業データベース」に登録されています。さらに、国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録」を受けております。詳細は、国土交通省の報道発表資料をご参照ください。（登録番号：品確技資第110号）（建設環境：調査：管理技術者）
2. 2020年度「環境アセスメント士」認定資格試験受験申込み開始

- (1) 受験申込み受付開始：2020年9月1日（火）から受験申込み受付を開始します。申込書は協会ホームページからダウンロードしてください。  
<https://www.jeas.org>  
「受験の手引き」はホームページに掲載しました。  
受験料：12,000円
- (2) 受付終了日：2020年10月23日（金）
- (3) 試験日時：2020年11月23日（月・祝）  
10時～16時45分
- (4) 試験会場：仙台、東京、大阪、福岡の4会場  
（2021年度の試験会場は札幌、東京、大阪、福岡の予定です）
- (5) 過去問題集：2015～2019年度までの過去問題集を販売中です。詳細はホームページをご覧ください。「生活環境部門」、「自然環境部門」に分かれています。

### 3. 2020年度の資格更新

2020年度の資格更新手続については、2021年2月1日（月）から4月30日（金）まで受付を行います。今年度は、2015年度に登録された方（登録番号がH27で始まる方）が対象ですが、2013、2014年度で更新をされていない方（登録番号がH25、H26で始まる方）も対象になります。この方は現在、更新保留者となっております。資格更新には条件があります。詳細についてはホームページ中の「資格の更新の手引き」（8月上旬に掲載予定）でご確認ください。

昨年度より、更新をされていない場合は、常に保留状態となっております。保留状態の方の更新条件は変更となっておりますので、改めて更新の手引き（保留者）をご覧ください。

### 4. JEAS-CPD記録登録について

環境アセスメント士の技術レベルの維持・向上、倫理観の涵養等を図るため、継続教育を義務付けております。

- ・詳細はホームページの「JEAS-CPDガイドブック」にてご確認ください。
- ・CPD記録登録の内容が一部変更となっております。ご確認ください。
- ・記録登録の受付は随時行っております。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、セミナー等の開催に影響が出ています。自己研鑽の機会は、ご自身で上げられるようお願いいたします。その際、自己研修として専門誌などの熟読などもお考えください。ガイドブックにもとついたレポートを提出いただきますとCPD記録登録が可能です。

### 5. 変更届の提出について

住所や勤務地が変わられた場合は、速やかに変更届の提出をお願いいたします。（変更届はホームページに掲載）

6. 環境アセスメント士会は、個人を基盤として情報交換など活発な活動を行っております。まだ加入されていない方は、是非入会されますようお願いいたします。

(資格・教育センター事務局)

## 協会活動記録

例年4月に開催していた「技術士第二次試験受験」講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師、受講者が集合した研修会形式での開催を中止としました。その代替措置として、現在、例年の講義内容（技術士試験概要、受験申込み要領、受験勉強の進め方、直近の合格者による勉強方法の秘訣、受験対策（筆記試験））をまとめた講師作成のテキストを協会ホームページに掲載しております。会員各法人の受験予定者の準備の一助になれば幸いです。なお、このテキストは会員限定となっております。

### 第16回技術交流会の開催について（予告）

研修部会では、会員相互の技術交流や業務の活性化、ならびに会員の有する環境アセスメント関連技術の内外への発信等を目的として、第16回技術交流会の開催を予定しております。

8月に協会ホームページに「技術紹介申込み受付」を公開する予定ですので、会員の皆さまには本会の主旨をご理解いただき、各社の技術紹介にご活用いただきますようお願い申し上げます。

#### 1. 開催趣旨

当協会の会員は、環境アセスメントに関するそれぞれの得意な分野と技術を有しており、これら蓄積された技術やノウハウについて、この技術交流会を通じて会員相互で紹介・PRすることで、会員各社の業績向上・発展に資するものと考えます。

#### 2. 開催日時、会場

2020年12月上旬、東京23区内

#### 3. 技術紹介の形式

①口頭発表、②パネル展示、の2形式（両方への申込みも可）

#### 4. 技術紹介申込み

8月より受付開始予定（協会ホームページにて詳細公表予定）

※技術交流会での発表及び展示の内容は、JEASニュースに掲載され、協会ホームページで公表されます。

### 環境アセスメント学会からのお知らせ

#### 2020年度大会開催のご案内

環境アセスメント学会2020年度研究発表大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の関係でオンライン方式での開催となります。大会概要は下記のとおりですが、JEAS会員の皆さまも奮ってご参加ください。

#### 1. 開催日時：9月5日（土）～6日（日）

#### 2. 開催方法：Web会議システムZOOMを利用したリアルタイムオンライン方式

シンポジウムはウェビナー形式での開催を検討中

#### 3. プログラム構成

○一般発表・特別集会：9月5日（土）～6日（日）に開催予定

○シンポジウム「洋上風力発電と環境アセスメント（仮題）」：5日（土）午後開催予定

※ポスターセッション/技術展示/エキスカージョン/懇親会は中止とさせていただきます。

※詳細については、学会ホームページをご参照ください。

### 第9回JEASフォトコンテスト（2021年度JEASニュース表紙写真募集のご案内）

2021年度もJEASニュースの表紙を飾る写真をコンテスト形式で募集します。テーマはこれまで同様「日本の四季」です。未来に残したい日本の風景、行事など、季節感あふれる作品の応募をお待ちしております。採用された方には、賞金（1万円）等が授与されます。詳細は協会ホームページにてご確認ください。

#### 募集概要

- ・テーマ：日本の四季
- ・採用作品数：春夏秋冬各1点、計4点。
- ・応募資格：JEAS会員団体に属する個人
- ・募集期間：2020年7月1日（水）～2021年1月15日（金）必着
- ・写真規定：カラー写真（プリントの場合は六切程度、デジタルの場合はおおむね500万画素以上）
- ・結果発表：2021年4月1日、JEASニュース170号誌上、協会ホームページ

#### 応募・お問い合わせ

（一社）日本環境アセスメント協会 JEASニュース表紙写真選考委員会宛

### 環境アセスメント技術ガイド販売のお知らせ

日本環境アセスメント協会では、「環境アセスメント技術ガイド」を販売しております。購入希望者は、協会ホームページにある申込フォームまたは申込書にてお申し込みください。

協会ホームページ：<https://www.jeas.org>

#### ■ 環境アセスメント技術ガイド

##### 「大気環境・水環境・土壌環境・環境負荷」

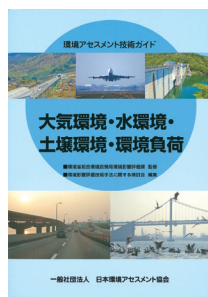
体裁：B5判、ソフトカバー、並製、320ページ

価格：3,899円（税別）

##### 「生物の多様性・自然との触れ合い」

体裁：B5判、ソフトカバー、並製、240ページ

価格：3,593円（税別）



### 編集後記

167号の編集後記を作成するにあたり、当初は特集委員として、同号の特集に触れようかと考えていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、夏号では特集の掲載を見送ることとなりました。

JEAS編集委員会における新型コロナウイルスの影響はこれだけに止まらず、同委員会の中止やメールベースによるやり取りが進められる等の変化がありました。また、私の職場においては、当面の間、原則在宅勤務が求められました。客先においても、在宅勤務や出張制限、WEB会議の導入等の対応を取られているという話をしばしば耳にします。

若輩者の私としては、このような経験は初めてであるかのように感じますが、世界的パンデミックに発展した感染症について調べてみると、過去100年間では、スペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜ、新型インフルエンザ等があり、また、未知の感染症については、私が覚えている限りでも、高病原性鳥インフルエンザ、SARS、MERS等がありました。これらの歴史を鑑みると、今後も感染症リスクを想定した対応、いわゆるニューノーマルな生活様式が求められていくのではないのでしょうか。

実際、私はWEB会議の機会が増えたのですが、なぜか「若手＝機械が得意」というイメージがあるようで、よくセッティング等を任せられます。実は機械音痴な私ですが、新たな時代を生き抜くために環境適応性を高めていきたいと思います。

（編集委員 内田啓太）